



紙面のガーデニング
ラルクのハナミズキ

浦学だより

Vol. 91

☎ 336-0975

埼玉県さいたま市緑区代山 1 7 2

☎ 048-878-2101 ☎ 048-878-3335

http : //www.uragaku.ac.jp/

発行者 浦和学院高等学校広報渉外部

編集者 浦和学院高等学校企画部

URAWAGAKUIN HIGH SCHOOL

2014.6.2

部活動大会報告

テニス部男子

3年E組 福井 裕貴
(さいたま市立西原中学校出身)

全国選抜大会

全国選抜大会では、男子1回戦敗退、女子ベスト8という結果になった。

男子1回戦甲南高校との試合は2対3で接戦になったが負けてしまった。女子もベスト4を決める試合で2対3と接戦になったが、負けという結果になってしまった。このような結果になってしまったが、この大会を通してチームの絆がより深まった。男子は2年ぶりの全国選抜大会に出て、全国という舞台の雰囲気を感じたり、選手としてチームのために戦い抜いたり、チームの仲間を応援し、全力で最後まで戦い抜き、また新たに私たち自身が成長したと思う。

男子だけでなく、女子も勝てば優勝、男子ならベスト8に行けたという悔しい気持ちはあるが、新たな全国への道がすでに始まっている。私たちは今回の経験をバネにその道を突き進む。

全国選抜大会ベスト8

テニス部女子

3年K組 廣川 真由
(越谷市立富士中学校出身)



私達テニス部女子は、昨年ベスト16で終わってしまった悔しさや、先輩達の思いも含めて毎日練習してきました。

まず1回戦で浜松市立と大苦戦しながらも勝利し、勢いに乗って第1シードの京都外大西も倒してベスト8に入りました。ベスト4決めも大接戦しながらも惜敗し、

優勝という目標には届きませんでした。今回の目標は、「優勝して笑顔で帰る」と掲げていたので達成できなくてとても悔しいです。

しかし、このベスト8という結果は自分たちだけでなく、先生や家族、メンバー以外みんなの支えがあるからだと思います。次のインターハイでは、今回の経験を生かし優勝できるように頑張ります。

今後とも応援よろしくお願いします。

全国選抜大会

パワーリフティング部

3年X組 植木 信芳
(草加市立新栄中学校出身)



私達パワーリフティング部は、3月23日の全国大会に出場しました。昨年の夏の全国大会では男子が団体優勝し、団体では良い結果を残すことができましたが、私個人の結果が良くなく団体にも貢献できず、悔しい思いが残りました。その為、まず自分で目標と期限を決めて取り組むようにしました。ゴールに向かい、時間を区切って力を尽くせば達成できてもできなくても、何が良くて何が足りなかったか、次はどうすべきか、目に見える結果を得ることができると思ったのです。その結果、今大会の個人では優勝、入賞する部員も多く良い結果を残せました。この結果をとれたのは先生方、先輩方のサポートがあり、普段の練習でも自分たちの練習を指導して下さったおかげだと感じました。夏の全国大会では団体優勝2連覇を目標に頑張っていきます。

26年度の本校の指針

学校法人明星学園理事長 小沢 友紀雄
浦和学院高等学校校長

浦和学院高校の校風と伝統を「品格のある文武両道の浦学」を感じるものにしたいと考えている。「品格のあるもの」を作るのはそう容易ではない。年月をかけてコツコツと築き上げ、磨き上げて自然に備わってくるものであり、短期で完成するものではないのだ。

26年度の本校の目標として、「国際教養の浦学」そして「ライフスキル教育の浦学」の完成に全教職員がベクトルを合わせ、生徒の一人ひとりの個性に合わせた教育を行い、想像以上のレベルの大学進学を成功させることがある。

国際教養の浦学の推進のために、当校は意識的に国際的多様性に触れる機会を増やしていくつもりでいる。そして、教職員・生徒・保護者を含む浦学ふぁみりー全体が、「国際的多様性に触れる機会を増やす努力」を怠らず、それをライフスキル教育に利用する意識を持つことが大切である。

社会生活の中に生じる問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処出来る能力をライフスキルといい、それを育てる教育がライフスキル教育であるが、当校はそれを重視している。WHOが示すライフスキルの10項目には「意志決定・問題解決・創造的思考・批判的思考・効果的コミュニケーション・対人関係スキル・自己意識・共感性・情動への対処・ストレスへの対処」などがあるが、これらの教育の場は社会生活、学校生活の中に多種存在する。国際的多様性に触れて、「何を感じ・考え・行動するか」に利用出来れば、国際教養とライフスキルの両者の教育に大きな影響をもたらすに違いない。

国際教養とライフスキル教育は浦学の品格を向上させる大きなベクトルの一つになるものと思っている。

NDA National Championship 2014 (全米大会3位)

ソングリーダー部

3年N組 成塚 南美
(鴻巣市立鴻巣西中学校出身)

私達ソングリーダー部は、3月上旬、フロリダで開催された「NDA National Championship 2014 (全米大会)」に2年連続出場しました。昨年は、出場できた喜びでいっぱいでしたが、今回は順位をあげることが目標でした。昨年の6位から3位に順位を上げられたのは、学校の応援や保護者の応援、そして卒業した上級生の方々の応援があったからだと思います。この大会では、チーム同士が健闘を称え合い、演技中も会場全体で応援してくれるので気持ち良く演技ができました。そして、各々のチームが心から他のチームを応援するというスピリットを学べました。8月下旬の「Usa School & College Nationals 2014」では、全米大会で学んだことを活かせるように臨み、全国2位に入賞しました。私達の持てる力を出し切れたので納得をしています。さらに大きな目標を掲げ、個人でもチームとしても成長できるように練習を重ねていきたいと思っています。



平成25年度受験結果について

昨年度の大学入試を振り返ったときまず頭に浮かぶのは、旧課程最後の入試であったということだ。旧課程で勉強していた生徒が、新課程での試験を受けることは明らかに不利になる。そこで浪人することを避けるために、1人あたりの出願数が増えた。その結果、受験人口は減少しても実質倍率は昨年度に比べると高くなり、生徒たちにとっては厳しい受験となった。実際、センター利用試験では、昨年度であれば合格している点数でも不合格になるケースが多々あった。

また、昨年度はインターネット出願元年の年でもあった。全国に先駆け、3つの大学が全ての出願をインターネットで行うことを決めた。その中の1つである近畿大学は、それまで出願者数1位を争っていた早稲田大学と明治大学を抜いて日本一の志願者を集めた。おそらく、今後インターネット出願は急速に普及することになるだろう。急きょ受験校を追加するとき、願書を取り寄せなくても出願できるこのシステムはかなり便利であり、本校でも利用する生徒が多かった。また、インターネットで出願すると、受験料を割引する学校などもあり、各大学が受験生を確保するために様々な取り組みを実施している。今後、受験生たちはそういったところにも着眼しながら、慎重に大学選びを行う必要がある。

このような状況の中で本校は、6年連続で大学進学率80%を超える実績を出すことができた。国公立大学においても昨年度より11名増加し、27名が合格した。年々実績が上がる本校に対して、指定校推薦を依頼する大学が増えている。昨年度、立教大学や國學院大学からは新規で依頼があったほか、法政大学は人数枠を増やした。

3年生諸君には、さらなる飛躍を期待する。

進路指導部長 高橋 広和

大学・短大 現役進学率 86.4%

区 分	進学数	現役合格率
国 公 立 大 学	27名	81.3%
私 立 大 学	609名	
短 期 大 学	40名	5.1%
大学・短大 計	676名	86.4%
専 門 学 校	85名	10.9%
総 計	761名	97.3%

平成25年度

現役生受験結果

(合格者延べ数)

国公立大学	私立大学	私立大学	短期大学	看護・医療系専門学校	専門学校
東京農工大学 1	淑徳大 10	東京電機大 10	青山学院女子短大 3	上尾中央医療専門 1	B L E A学園 1
横浜市立大学 1	女子栄養大 2	東京都市大 3	亜細亜短大 2	アポロ歯科衛生専門 1	H A L 東京 2
宇都宮大学 1	女子美術大 7	東京農業大 1	大妻女子短大 3	大宮歯科衛生士専門 2	エコール辻 1
弘前大学 1	尚美学園大 18	東京富士大 2	川口短大 2	川口市立看護専門 2	ハリウッドビューティー 2
信州大学 2	昭和音楽大 1	東京福祉大 5	国際学院埼玉短大 2	北里看護専門 2	ヒコ・みづのジュエリー 1
会津大学 1	昭和女子大 4	東京未来大 6	埼玉女子短大 3	埼玉県立高等看護学院 1	国際こども福祉カレッジ 1
滋賀大学 1	上武大 2	東京理科大 2	実践女子短大 1	慈恵看護専門 1	国際文化理容美容専門 1
新潟大学 1	上智大 2	東都医療大 2	淑徳短大 4	慈恵柏看護専門 1	埼玉理容美容専門 4
琉球大学 3	城西大 25	東邦大 1	女子美大短大 2	太陽歯科衛生士専門 1	埼玉県立中央高等技術専門 1
都留文科大学 1	城西国際大 16	日本芸術工大 1	星美学園短大 2	中央医療技術専門 1	埼玉自動車学校 1
北見工業大学 2	駿河台大 3	東洋英和女学院大 1	聖徳短大 3	帝京高等看護学院 3	埼玉福祉専門 1
室蘭工業大学 2	成蹊大 5	東洋学園大 10	戸板女子短大 3	東武医学技術専門 2	山野美容専門 1
新潟県立大学 1	成城大 1	東洋大 29	東京成徳短大 3	戸田中央看護専門 2	資生堂美容技術専門 1
熊本県立大学 1	清泉女子大 1	獨協大 9	東京農大短大 1	西埼玉中央病院看護 1	尚美ミュージックカレッジ 2
富山県立大学 2	聖学院大 10	二松学舎大 1	東京福祉短大 1	日本健康医療専門 1	織田栄養専門 1
釧路公立大学 3	聖徳大 4	日本医療科学大 10	新渡戸文化短大 2	日本リハビリテーション 1	新宿調理師専門 1
青森公立大学 1	西武文理大 6	日本体育大 2	日本大短大 2	東都リハビリテーション学院 1	神田外語学院 1
防衛大学校 1	聖心女子大 1	日本女子体育大 3	日本歯科大東京短大 1	医療系専門学校 小計 24	代官山音楽院 1
職業能力開発大学校 1	専修大 10	日本工業大 10	武蔵丘短大 1		大宮こども専門 1
国公立大学 小計 27	大正大 5	日本大 19	短期大学 小計 41		大宮国際動物専門 1
	大東文化大 20	日本保健医療大 6			大原医療秘書福祉保育専門 1
	拓殖大 5	日本文化大 1			大原法律公務員専門 2
	宝塚大 6	日本薬科大 6			東京アニメーション 1
	高崎商科大 1	人間総合科学大 4			東京コミュニケーションアート 1
	高千穂大 2	白陽大 2			東京スポーツレクリエーション 1
	玉川大 2	阪南大 1			東京デザイナー学院 2
	多摩美術大 2	文化学園大 4			東京ビューティーアート 1
	千葉科学大 1	文京学院大 8			東京フィルムセンター 2
	千葉工業大 14	文教大 12			東京ヘアビューティー 2
	中央大 4	平成国際大 6			東京ヘアメイク 1
	中央学院大 4	法政大 7			東京観光専門 2
	帝京大 52	武蔵大 4			東京声優アカデミー 1
	帝京科学大 12	武蔵野大 3			東京総合美容専門 3
	帝京平成大 8	武蔵野美術大 3			東京法律専門 1
	デジタルハリウッド大 3	明海大 2			東放学園 1
	桐蔭横浜大 2	明治大 4			東洋美術学校 3
	東海大 6	明星大 6			読売自動車大学校 2
	東京医療保健大 2	目白大 11			日本ウェルネススポーツ 1
	東京家政大 5	ものつくり大 4			日本ホテルスクール 1
	東京家政学院大 2	山梨学院大 1			日本外国語専門 2
	東京経済大 3	立教大 6			日本工学院 3
	東京工科大 17	立正大 16			日本美容専門 2
	東京工芸大 3	流通経済大 4			武蔵野調理専門 1
	東京国際大 22	了徳寺大 2			服部栄養専門 1
	東京女子体育大 3	麗澤大 2			専門学校 小計 64
	東京情報大 1	和光大 1			
	東京成徳大 2	和洋女子大 1			
	東京造形大 1	私立大 小計 715			

第34期卒業生
在籍 782名

平成26年3月24日現在



進学類型

3年V組 森 ゆきな
(越谷市立中央中学校出身)

私は、オーストラリアへの5泊7日の修学旅行を終えて、学んだことや感じたことが2つある。

1つ目は、言葉が伝わらないということである。このことをとても感じたのはファームステイをしたときであった。普段伝えているような簡単なことでも、英語にするととなると難しくなって上手に相手に伝えられない。単語はあっても発音が違っていて伝わらないという場面もいくつかあった。そういうとき、ジェスチャーなどを使って、気持ちを伝えてみると意外にも相手の方は分かってくれた。言葉のみでなく、体を使ったり、気持ちを必死に伝えようとするのが大事だということを身を持って学ぶことができた。そして、コミュニケーションをとるといことは本当に簡単なことではないということも同時に学ぶことができたと思う。また、難しいながらも、やはり相手に伝えようとする気持ちも大事だということを感じた。

2つ目は、集団で行動をするということについてだ。集団での行動は今回が初めてというわけではない。今までたくさんあったことだ。しかし、海外を1日中友達数人と歩くということは今までにない経験だった。言葉も読めない、初めて歩く道、分からないことだらけの中での班別行動は、誰かが勝手なことをしたらしくずれてしまうものでもあり、大変な部分が沢山あった。団長の先生からもあったように、「思ったことはきちんと言う」ということはとても大事なことだと思う。しかし、我慢すべきところは我慢し、みんなの意見を一致させることも本当に重要だと感じた。しっかりと意見を言った上でみんなで意見を一致させる。気持ちを合わせるこれが集団としての行動にはかかせないことだということである。

海外での修学旅行は、コミュニケーションのとりかたや集団行動の大変さ、大切さをとても学ぶことができた。



修学旅行

特進類型

3年B組 鈴木 沙月
(川口市立八幡木中学校出身)

修学旅行に行くまで、自分の住んでいる国、日本について一般的に言われているイメージでしか理解していませんでした。しかし、オーストラリアに行き、日本との違いをみて「日本はどういう国か」なんとなくわかったような感じがします。

まず、一番最初のオーストラリアの印象は、時間とは切り離されている場所だと思いました。日本は時間に正確に動きます。そこは良い事なのですが、人々が忙しく動いていて余裕がないようにみえます。オーストラリアの人々が時間にルーズであるという話ではありません。学校や仕事の終わりが早く、時間がたっぷりあり余裕があるのです。時間がゆっくり動いていくのです。

次に、日本は水がたくさんある国なのだと実感しました。ホストファミリーには、シャワーの時間は5分と言われました。水はとても貴重だからと。それで実感したのもありますが、車で道を走っていても川がなかなかみあたらないのです。見つけても水深が浅いのです。

さらに、オーストラリアに行って得たことは、言葉についての関心です。私は、英会話は得意ではないし知識もありません。しかし、知っているかぎりの言葉で伝えなくてはならないのです。伝わった時はとても達成感があり良いのですが、伝わらないと、とても悲しい気持ちになります。この人と話したいことがあるのに、話したいのに話せないのです。知識がないだけです。これはとても悲しい事だと思います。だから私はもっと英語を学ぼうと思いました。



語学研修

2年E組 折田 奏 (草加市立草加中学校出身)

私は、語学研修でとてもたくさんのことを学びました。その中で、特に目を見て話すことを学びました。私は語学研修に行く前、学級委員でありながら全然人の目を見て何かを話すことができませんでした。人見知りをなおしたいと思い、学級委員に立候補したにも関わらず、克服できていませんでした。

英語はあまり好きではない科目であり、語学研修をやっていく上で、大丈夫か最初は不安でいっぱいでした。ネイティブの先生と私たちだけの3日間の授業が始まり、最初は何を話しているのか、どんなことを言っているのかが分かりませんでした。でも、徐々に聞いていくうちに文法が分からなくても単語が聞き取れるようになり、なんとなくですが言っている言葉の意味が分かるようになっていきました。最初は不安でいっぱい、笑顔なんてつくってられない感じでしたが、徐々に分かってくる私でさえ少しゆとりを持てるようになっていきました。

最後の日の授業が始まりました。最後の授業は私が一番苦手な英語でのスピーチでした。前日にネイティブの先生からスピーチをやると言われていて、どうしようかと不安になっていた所、「Do your best!!」と声をかけてくれました。私は初めてこんな事を思いました。完璧じゃなくてもいい、自分なりのベストをつくせばいいということを知りました。その事を思い出し、最後のスピーチは自分の目標にしていた前を向くことを意識してベストをつくしてがんばりました。

あの時、先生が言ってくれなかったら私は緊張して思うように上手くスピーチができなかったことでしょう。人というものは、会話をしていくことで言葉も変わり、心も変わります。そんな事を改めて感じたこの語学研修はとても思い出に残りました。

来年のオーストラリア修学旅行は英語をもっと今まで以上に勉強をして、ファームステイなど充実した7日間を過ごしていきたいです。



卒業記念講演会



25年度の卒業記念講演会には、古賀稔彦氏が来校されました。古賀氏は、1992年バルセロナオリンピック柔道金メダリストで、現在は環太平洋大学教授や古賀塾で次世代の子供たちの育成をされるなど、多方面において活躍をされています。(2014年3月現在)

講演会では、「夢の実現～挑戦することの大切さ～」をテーマに、ご自身の柔道体験や柔道の精神性を踏まえながら、自分の夢を実現するために必要な素養と考え方について分かりやすくお話し頂きました。途中、本校柔道部員らも壇上にあがり、「誰かの為に、と思う挑戦が自分の持っている以上の力を引き出す」という古賀氏の言葉の内容を実践するなど、会場はパワーと熱気に包まれていました。卒業生のみならず、常に挑戦する心を忘れずに大きな夢をつかんで下さい！

僕が石巻ボランティアに参加しようと思ったきっかけは一年間のカナダへの留学でした。僕は、ボランティアに行く前の2月1日に日本に帰ってきました。カナダで英語を学び、英語をみにつけるだけが留学だと思っていました。しかし実際はそれだけではありませんでした。現地の学校に通って世界地理を勉強した時に現地の先生から「日本の地震と津波はどうだったの？」と聞かれました。自分の場所が津波の影響はなかったということ、海岸沿いの東北などの影響は深刻な問題だったことなどをしっかりと伝えました。しかし、「今はどうなっているの？」という問題に的確な回答をすることができませんでした。「この問題を曖昧にしておくわけにはいかない」と思い、ボランティア活動があることを知り、急いで参加することにしました。震災地域に実際に行くと「まだなにも終わっていない」ということを強く感じました。震災直後は各地からボランティアが来て、瓦礫の撤去、支援物資の配布など色々な支えがあったのに、3年過ぎるとほぼボランティアがいなくなっていることに少しショックでした。



3年A組 小林 幹也 (朝霞市立朝霞第一中学校出身)



浦学独自の交流活動33回目となる、初の「一般ボランティアツアー」は、参加者を特定の部活動や類型コースに限定せず、全額自己負担の公募方式で行い、大型バス定員を満たす39名の参加で行われました。生徒22名を含む保護者・後援会・同窓会・教職員で構成される一行は「浦学ふぁみりー 石巻応援隊」と称し編成されました。

「被災地を自分の眼で見る」と同時に、「心の瓦礫を取り除き、心に栄養を与えよう」という目的を掲げ、1日目を視察に当て、2日目をボランティア活動に費やすこととなり、石巻交流センター(震災対策本部)が用意したプログラムに、参加者全員が団体行動を遵守し、意識高く協力してくれたことから、何事もスムーズに、一人の病人・怪我人もなく安全にツアーを終えることができました。

ボランティアに参加してくれた、2年生(現3年)小林幹也君の感想文を紹介します。石巻交流センターでは、継続して「一般ボランティアツアー」を行います。是非、石巻応援隊にご参加下さい。

浦和学院高等学校 石巻交流プロジェクト

笑顔・希望! 一明日へ共に歩む



頑張る仲間をみんなで応援!!

一般ボランティア
ツアー